

【指導者育成編について】

森 林環境教育は、森林を通じた体験により自然や社会とのつながりなどについて知り、考え、理解を深めていきます。そして、持続可能な社会の実現に向けて、**自ら考え、具**
動を实践する人づくりを行うことです。



「カムイコタン歴舟の森」およびその周辺をフィールドとして、森林・林業体験プログラムを実践するための実施手順を作成しました。この実施手順は、今後、当地区で森林環境教育を企画し、実行するための参考となるよう、具体的に森林・林業の体験プログラムとして2例示しました。

しかし、森林環境教育を行う場合、参加者の年齢や人数構成、経験、それらから求められる要求レベル、活動時期など、多岐にわたることが想定されます。画一的なプログラムや参加者の要求レベルにそぐわないプログラムは、参加者の不満、関心の喪失につながることになり、最悪の場合、全てが無駄になるばかりか森林や林業に対してマイナスのイメージを抱くことになりかねません。

したがって、体験プログラムを行う企画

者および運営者（主催者）は、参加者の要求レベル等を十分理解するとともに、活動場所の状況についても把握し、プログラムを作成することが求められます。そして、子供たちとのふれあいを通して、柔軟な対応により活動を進めていくことが重要であると考えます。

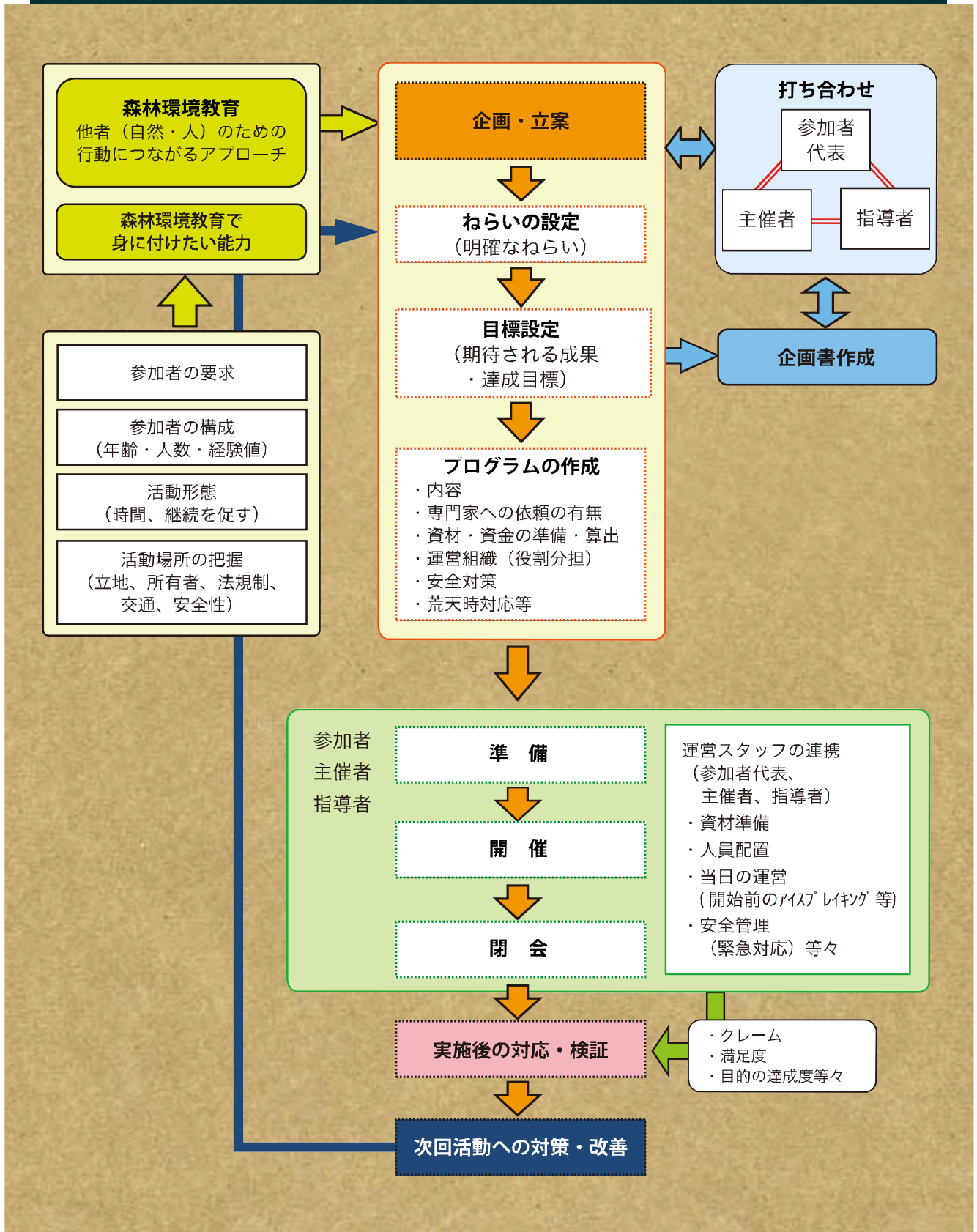
今後、この「カムイコタン歴舟の森」（指導者育成編）が 一助になることを願っております。

次ページからは、
森林環境教育実施に
あたっての
実施手順などを
ご紹介します



3-1 実施手順について

「カムイコタン歴舟の森」の森林環境教育の実施手順イメージ図



森林・林業体験プログラムを実践するための一般的な実施手順です。この手順に沿った具体的な例の中で、それぞれの段階で想定される検討内容や確認事項などを、出来るだけ記載するように心がけました。企画者がプログラムを作成するに際し、以降の例を参考として利用していただき、個々の活動形態に即したプログラムを企画されることを期待します。

■「カムイコタン歴舟の森」の森林環境教育の一般的な実施手順の流れ

段 階	企画者(主催者)の検討項目・内容等	注意事項等
参加者代表からの依頼	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の要求や構成を把握する。 参加者の構成、活動時間、時期、継続の可能性、森林環境教育で参加者が「身に付けたい能力」を聞き、または提案する。 	参加者の構成とは、人数、レベル、個々の体力、怪我や持病の有無など。
関係団体との打合せ	<ul style="list-style-type: none"> 関係者との打合せ、協議、助言などをもらう。 フィールド(国有林)の利用や可能な活動内容、規制事項、参加依頼、企画者の考えなどを協議。 現地確認。 	企画者、参加者代表、森林管理局(土地管理者)、教育委員会・町(土地利用の協定者)と必要事項の確認と意思疎通を図る。
目的、活動内容、ねらい、達成目標を想定	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の要求を理解し、活動内容やねらい、達成目標を整理。 活動場所の検討と選定。 	関係者と意思疎通を図り作成。
プログラムの作成(企画デザイン)	<ul style="list-style-type: none"> プログラムで期待される成果を考慮し、テーマ等を決定する。テーマ、ねらい、達成目標をしぼり明確化する。 ストーリーの構成と進め方を考える。 導入→活動→まとめ・振り返りの流れ、タイムテーブルの作成。 導入を構成する(アイスブレイク、動機付け)。 活動を構成する。 ユーモアや遊び心、表現の仕方。項目や順番、内容について。 活動場所の安全性と事前準備の有無、移動手段などについて。 まとめ・振り返りを構成する。 専門家、協力団体への依頼の有無を検討。 必要な資材や準備項目の把握。必要な人材(スタッフ)。 運営組織(役割分担、責任者の決定)。安全対策。 荒天時の対応(連絡体制、別プログラム)。必要資金など。 	<p>【プログラムの企画に際し、覚えておくべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○誰もが好きなこと、嫌なこと。 <ul style="list-style-type: none"> ・好きなこと：五感を使った体験、ユーモア、新しい知識・情報が理解できるなど。 ・嫌いなこと：地味な講義、一方的な説明、専門的過ぎる、段取りが悪い。 ○自然体験活動の意義。 <ul style="list-style-type: none"> ・人が自然と触れ合いながら、自ら行動し、五感で感じながら、積み重ねていく学びのプロセス。 ○参加者がまた参加したいと思える内容に。
企画書または意思疎通のための資料作成	<ul style="list-style-type: none"> ねらい、参加者、活動内容や達成目標などを記載した企画書などの資料を作成(明確化)する。 運営側の意思疎通(共通認識)を図る。 関係者との打合せ、協議、助言などをもらう。 	身に付けたい能力が得られる「ねらい」「目標設定」が参加者の要求に適合しているか、また、そのようなプログラムになっているかを検証する。そうでなければ「目的等の想定」から再検討する。
事前準備の実施	<ul style="list-style-type: none"> 必要資材の準備、調達。 主催者、協力団体、専門家などの分担を決め調達(依頼)。 最終ミーティングの実施。 当日の流れ、役割分担、連絡体制、安全確認、荒天時の対応等。 現地での事前準備。 保険の加入(賠償責任保険、傷害保険)。 	関係者による事前打合せや現地の確認。ヒグマの出没情報を役場から入手しておく。
開催当日	<ul style="list-style-type: none"> 当日の流れの確認。 参加者の体調把握、活動場所および移動経路の安全確認、新しいヒグマの痕跡、ハチの有無、救急箱、無線の準備。緊急連絡先(救急病院)と場所、緊急搬送用車両の配置など。 状況によっては活動内容の変更や中止を決定。 	当日開催前の現地の見回りは2名以上で実施。
体験活動の開催	<p>開催。</p> <p>活動中。</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動の進捗状況により、場合によっては、プログラムの変更・削除も必要。(まとめ・振り返りは除く) <p>閉会。</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者からのアンケートをもらう(主催者)。 見送り(スタッフ全員)。 	<p>活動中、スタッフは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の反応に敏感になり対応する。 ・参加者ができているかを確認。 ・必要に応じて活動のコツ、ヒントなどの情報を伝える。 ・参加者同士や指導者、専門家と話し合える時間や雰田気づくりを行う。 ・全体を通して安全管理への配慮、ゴミへの注意。 <p>閉会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物、落し物、ゴミ、返却物の確認。
実施後の対応・検証	<ul style="list-style-type: none"> スタッフミーティングの実施。 アンケートの検証、活動内容のレビュー、スタッフが感じた問題点(指導の工夫など)など。 参加者が満足していたか、当初のねらいどおり目的は達成されたか等について話し合い。 協力団体、専門家等への挨拶、報告。 参加者への事後ケア(ニュースレターの配布など) 	アンケートなどの意見を集約(クレーム、満足度など)
次回活動への対策・改善(フィードバック)	<ul style="list-style-type: none"> 次回の開催に向けて具体的な取組についての整理、参加者の意向をまとめ、今後の活動に活かせるような提案を行う。 スタッフの成長(主催者の開催方法などについての問題提起)。 	今後の実施に向けて、参加者や専門家、協力団体とのネットワークを形成する。

3-2-1 実施手順【例1】

森のめぐみ—林業体験—

企画者（主催者）

大樹町で行われている宿泊体験活動で、遊々の森「カムイコタン歴舟の森」をフィールドとした森林・林業に関する体験活動が出来ないかどうかの依頼を受ける。



I 参加者の要求や参加者の構成を把握する

林業体験をしたい。協働や他者（自然・人）への理解を深めたい。
参加者は小学校高学年、男女約20名。これまでの森林環境教育体験活動の経験なし。夏～秋に活動時間は2時間程度。森林内の活動が可能（怪我や持病のある参加者はいない）。宿泊体験学習での活動の1つとして実施。など



II フィールドでどのような体験活動ができるかを土地管理者、「遊々の森」協定締結者へ相談し、現地を確認する

土地管理者：十勝西部森林管理署、遊々の森協定締結者：大樹町教育委員会、大樹町

●相談内容

- 各者に体験学習を実施したいことを伝え、利用可能なフィールドの情報を得る。
- 活動する場合の法規制などの必要手続き、規制行為について事前に把握し承認を得る。
- プログラム内容への助言、指導者（専門的指導）、運営スタッフとして活動への協力、参加を依頼する。
- 企画者が参加者にこの活動で体験してもらいたいこと、身に付けてもらいたいことを関係者に伝え理解を得る。

●現地確認

- 開催時期や活動時間、参加者の要求等を考慮し、実現可能な活動内容やフィールドを把握する。

【打合せ・協議・助言】

企画者、参加者代表、森林管理署、教育委員会、町

企画者がやりたいこと（想い）を伝え、活動可能か議論します。



III 活動の目的を考え、現地で可能な活動内容、ねらい・目標を想定する

目的：林業の視点からの成長を調べ、間伐体験を通して森を育てるための手入れの方法を知る。

【打合せ・協議・助言】

企画者、参加者代表、森林管理署、教育委員会、町

ねらい	目標となる内容	活動内容
森林に親しむ。	<ul style="list-style-type: none"> 木の質感、におい、木と人の大きさの違いなどを実感し、認識する。 森林に入るときの変換や危険回避を活動の中で養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 森林内での活動。
林業についての知識を深める。	<ul style="list-style-type: none"> 木を育てていくために必要な伐採があること（林業の一面）を知る。 伐採が必要な木の選び方（林業の一面）を知る。 森林を育てる手間と時間的なスケールを認識する。 薪にすることで、エネルギー源になること、間伐材の有効利用を知る。 ノコギリや斧の使い方を体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> 間伐をする理由を学ぶ。 間伐の実施。 林業の概要を学ぶ。 劣勢木の選木（質を知る）。 薪作り。
木について知る。	<ul style="list-style-type: none"> 針葉樹の特徴を知る。 木の伐採により、木が生きていることを実感する。 年輪、植栽年を確認することで、木が成長するまでの時間的なスケールを想像する。 同じ樹齢でも成長に差があることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 木の特徴を調べる。 太さ高さを測る。密度を調べる。 間伐の実施。 伐り株を触り、みずみずしさを実感する。 年輪を数える。

●活動場所を検討し選定する。

「漁民の森」と周辺のトドマツ林とする。（「漁民の森」：間伐体験が可能、周辺トドマツ林：人工林の成長を調べることが可能。）



IV プログラム作成（体験を進めていくための企画デザイン）

i) テーマを決める。

テーマを決定し、メインとなる「ねらい」や「達成目標」をしぼり、明確化する。（参加者が活動時間内に無理なく体験できる活動内容とする。）

【打合せ・協議・助言】

企画者、参加者代表、森林管理署、教育委員会、町

テーマ	森のめぐみ-林業体験-
ねらい	木について知り、森林の大きさや時間的なスケールを実感する。林業についての知識を深める。
達成目標	同じ樹齢でも成長に差があることを知る。木が成長するまでの時間的なスケールを想像する。木を育てていくために必要な伐採があること（林業の一面）を知る。



ii) ストーリーの構成と進め方を考える。

- ・導入→体験活動の実践→まとめ・振り返りの流れを検討しタイムテーブルを作成する。
- ・体験活動の実践では当初のねらいを達成するための活動を盛り込むが、そこから派生する色々な体験も学びとれるようにする。

1) 導入の検討と構成。

- ①グループ分け。
 - ・5名のグループとする（想定している活動内容から参加者が手持ちぶさたにならない人数とした）。
- ②アイスブレイキング。
 - ・2人1組、3人1組による3段階の手合わせを、人をかえながらくりかえす（3～5分）。
手拍子1回→相手と手合わせ→手拍子2回→相手と手合わせ→手拍子3回→相手と手合わせ、の繰り返しテンポを早くしていく。2人の場合は向かい合わせ、3人の場合は三角形になり左右の人と手合わせをし、グループ内で人を交代しながら進めていく。（参考 HP：アイスブレイク Info「イチボン」より。）
- ③動機付け。
 - ・林業の概要について説明し、現在の森林がどの段階かを知る。
（木を正しく育てることで、森林の多面的機能を維持し、質の良い材を収穫ができることなど。ポケットガイド参照。）
 - ・森林の恵みについて説明（動物の棲みか、安定した社会基盤、木材生産など。ポケットガイド参照。）
 - ・林業の概要を説明。（パネルなどを使用。）
 - ・今回は木を調べる方法と、木を育てるための伐採することを伝える。

2) 活動の項目や、順番、内容の検討と構成。

- ①木の成長を調べてから間伐体験を実施することを伝える。
- ②木の成長を調べる。
 - ・調べる木を参加者自身が選ぶようにし、活動への積極性を促す。
 - ・活動範囲は20m×20mとする。
 - ・選んだ木の特徴を調べる。活動は記録用紙に記入するかたちで進める。
（教材編プログラム「木の成長を知る」参照）
 - ・太さ、高さを計測したあと、密度を調べ、データをまとめる。
- ③木の成長を調べる活動のまとめをする。
 - ・計測結果を発表し、指導者がホワイトボードなどに記録しておく。
- ④間伐体験の会場に移動する。
- ⑤間伐体験を行う。
 - ・選定木（劣勢木）の選び方を教える。木を調べたときの特徴を思い返す。
 - ・間伐体験の場所の立木密度をあらかじめ伝え、木を調べた森林の密度の違いを感覚的に知ってもらう。
 - ・伐採する木を各グループで1本選定する。選定範囲はあらかじめ決めておく。
 - ・伐採。のこぎりの使い方、伐採をする人・周りの人が注意すること（安全確認）、他グループとの間隔や伐るタイミングを考え安全確保に努める。伐採後は人力で借り置き場へ持ち出す。
 - ・伐り株の年輪を数え、触れてもらい、伐り口のみずみずしさ、切った木の匂いがすることを参加者に促し、伐りたての木は水分をたくさん含んでいることを実感することで、木が活着していること、乾燥しなければ燃えにくいことなどの情報を与える。
 - ・枝を払い、薪にする長さに玉切りを行う。活動可能時間によっては、グループごとで玉切り競争などの実施も組み込む。
 - ・薪作り。玉切りした丸太の中から薪割りする。安全指導。
 - ・薪にするために乾燥しなければならないことを伝える。
作成した薪は、薪ストーブやオープンなどに使われることを伝える。希望者がいれば参加者に配布する。

【プログラムの企画に際し、覚えておくべきこと】

- 誰もが好きなこと、嫌なこと。
 - ・好きなこと：五感を使った体験、ユーモア、新しい知識・情報が理解できるなど。
 - ・嫌いなこと：地味な講義、一方的な説明、専門的過ぎる、段取りが悪い。
- 自然体験活動の意義。
 - ・人が自然と触れ合いながら、自ら行動し、五感で感じながら、積み重ねていく学びのプロセス。
- 参加者がまた参加したいと思える内容に。

3) まとめ・振り返り

- ・各個人またはグループで感想を発表してもらう。
- ・参加者と間伐した後を見て、周りの木が枝葉を伸ばす空間ができたこと、根も伐られた木の根が枯れることで周りの木の根が広がってくる空間が出来ていることを確認し、間伐が残された木の成長を促進することをイメージでしてもらう。
- ・間伐体験後の密度を伝え、数字の変化と現地の変化を感覚的に知ってもらう。
- ・間伐材が薪や炭などのエネルギーになることを伝える。また、エネルギー以外にも伐り出す大きさの違いなどで、チップ材やオガ粉など他の使い道が色々あることを伝える。
- ・残した木を育てていくために伐られた間伐材も、有効利用することで森林からの「めぐみ」になることを伝える。



iii) タイムテーブルの作成と専門家、協力団体への依頼の検討

専門分野に精通した人（専門家）・団体に対して人材や機材などの貸し出しについて積極的に協力を求めます。

時間	活動項目	依頼内容（依頼先）
	集合。	参加者の交通手段（参加者代表）
0：00	導入。 ・グループ分け、アイスブレイク、動機付け。	林業の説明（林家、管理署など）。
0：15	木の成長を調べる活動。 ・木の特徴調べ、高さ太さの計測、密度。	計測器機の貸し出し、使い方（管理署など）。
0：50	木の成長を調べる活動のまとめ。	
1：00	道具の片付け、会場移動。	
1：10	間伐体験。	木の選び方の指導（林家、管理署など）。 ノコギリなど作業道具の使い方および貸し出し、ヘルメットの貸し出し（管理署、町など）。
1：40	全体のまとめ、振り返り。	
2：00	アンケート、終了。	

次ページに
つづきます



iv) 事前準備項目を把握。

1) 必要資材のリストアップ。

測掉（グループ分）、30m巻尺（グループ分）、輪尺または直径巻尺（グループ分）、測高器（1台）、ヘルメット（人数分）、軍手（人数分）、ノコギリ（グループ×3本）、斧（グループ分）、記録用紙（グループ分）、アンケート用紙（人数分）、筆記道具（人数分）、画板（人数分）、ホワイトボード（1）、活動区域表示のための目印用リボン（1式）、林業説明用パネル（1）。

2) 現地確認等の項目を把握。

- ・木を調べる範囲（20m×20m）の設定と、範囲内のトドマツの胸高直径、樹高、立木密度の計測。
- ・間伐する範囲の設定と、立木密度を計測。
- ・間伐木の借り置き場の設定。玉切り作業、薪割り作業が行えるスペースを確保する。
- ・移動経路の確保（必要に応じて除草）。
- ・安全性、集合場所や移動経路の確認。

3) 人材の把握と運営組織づくり。

運営スタッフの役割分担を行い、プログラム実施のための配置（動き）をあらかじめ決める。スタッフが不足している場合は協力団体などに依頼し必要な人材、人員を確保する。

所属	氏名	役割	連絡先
主催団体	A	責任者、進行（全体・プログラム）、事前準備等。	携帯番号等把握
主催団体	B	副責任者、安全管理責任者、グループ指導、事前準備等。	
主催団体	C	運営サポート、事前準備等。	
協力団体A	D	運営サポート、グループ指導、事前準備等。	
協力団体B	E	運営サポート、グループ指導、事前準備等。	
協力者（専門家）	F	専門分野の指導説明（専門分野の安全管理）、運営サポート、事前準備等。	
参加者代表	G	参加者引率、運営サポート、事前準備等。	

スケジュール		A	B	C	D	E	F	G	その他
-1:30	活動当日。	会場準備	安全確認	会場確認	会場準備	会場確認	専門分野準備	引率	安全管理責任者は緊急用車両を配置する。
-0:30		スタッフ打合せ	スタッフ打合せ	スタッフ打合せ	スタッフ打合せ	スタッフ打合せ	スタッフ打合せ		当日の安全が確保されない場合は中止を決定する。
0:00	プログラム導入。	進行	休憩	別会場準備	休憩	休憩	指導	休憩	
0:15	プログラム 木を調べる活動。								
0:50	プログラム まとめ。						別会場準備		
1:00	プログラム 移動。						指導		
1:10	プログラム 間伐体験。			休憩			休憩		
1:40	プログラム まとめ。								
2:00	終了。								
2:30	参加者解散。	見送り	見送り	見送り	見送り	見送り	見送り	引率	スタッフ打合せ、片付け、清掃終了後解散。

4) 安全対策。

教材編「安全対策について」を参照し、対策事項を把握する。

5) 荒天時等の活動。

荒天または現地の安全が確保できない場合は、室内活動を準備するか開催を中止する。変更案として工場見学などの活動を予定。

6) 必要資金など

専門家、協力団体の謝金または交通費、参加者の移動費、資料調達費、事前の整備費等の予算を立てる。



V 企画書または意思疎通のための資料作成

ねらい、参加者、活動内容や達成目標などを記載し明確化。プログラムの内容、達成目標の質・量とも適当であるか、運営側および参加者代表とともに検証する。

【打合せ・協議・助言】

企画者、運営者、指導者
協力団体、参加者代表



VI 事前準備の実施

i) 必要資材の準備。

IV-iv-1) の必要資材のリストより、主催者が準備する資材、協力団体に依頼する資材を確認し準備する。

ii) 運営組織の事前打合せの実施。

- ・運営スタッフと役割分担や責任者、連絡体制、緊急時の対応、活動内容、安全確認、荒天時の対応などについて最終ミーティングを済ませておく。教材編「安全対策について」を参照。
- ・専門家、協力団体の使用機材の確認と取り扱いを確認。

iii) 現地の整備・確認などの準備。

IV-iv-2) の項目より、現地での準備および確認作業を実施。安全確認等については教材編「安全対策について」を参照。

iv) 主催者、参加者、スタッフの賠償責任保険、傷害保険への加入。



VII 開催当日

i) 開催前のスタッフ打合せと安全確認。

- ・当日の流れを確認。
- ・参加者の体調を把握。活動場所および移動経路の安全確認。新しいヒグマの痕跡、ハチの有無を確認（現地の見回りは2名以上で実施）。救急箱、無線の準備。緊急連絡先（救急病院）の場所、連絡先を把握。緊急搬送用車両の配置の場所を確認。など。

ii) 安全確認状況や天候によっては中止を決定。



VIII 体験活動の開催

i) 活動中のスタッフは、

- ・参加者の反応に敏感になり対応する。
- ・参加者ができているかを確認する。
- ・必要に応じて活動のコツ、ヒントなどの情報を伝える。
- ・参加者同士や指導者、専門家と話し合える時間や雰囲気づくりを行う。
- ・全体を通じた安全へ配慮。
- ・ゴミへの注意を促す。

ii) 閉会時

- ・忘れ物、落し物、ゴミ、返却物の確認。
- ・参加者からのアンケートをもらう。閉会の挨拶。（主催者）
- ・見送り。（スタッフ全員）

場合によっては、プログラムの変更・削除も必要（まとめ・振り返りは除く）。



IX 実施後の対応・検証

i) スタッフミーティングの実施。

- ・アンケートの検証。
- ・プログラムの内容、達成目標の質・量とも適当であったか。
- ・時間に余裕はあったか。
- ・危険な事案が発生しなかったか。
- ・準備内容に不備は無かったか。
- ・楽しさがもてる活動であったか。
- ・柔軟な指導はできたか。など。

ii) 協力団体、専門家等への挨拶、報告。

iii) 参加者への事後ケア（ニュースレターの配布など）の実施。



X 次回活動への対策・改善

次回の開催に向けて具体的な取組についての整理、参加者の意向をまとめ、今後の活動に活かせるような提案を行う。

■参考（企画書例）

活動名 (サブタイトル)	森のめぐみ-林業体験-
開催の目的	漁業体験、農業体験活動を行っている参加者が、森林内での活動を通して自然環境や森林、林業について興味を持つきっかけをつくり、地域や地域産業とのつながりを知ってもらう。
活動のねらい	木について知り、森林、林業についての知識を深める。
活動の達成目標	木が成長するまでの時間的なスケール、個体差、木を育てるための伐採を知る。
予想される成果	自然環境や森林、林業という地域産業について、新しい知識、情報を得ることが出来る。協働によるコミュニケーション能力、他者（自然・人）への気付き、理解を育む。
開催日	平成〇〇年〇〇月〇〇日（〇曜日） 午前〇〇時〇〇分～〇〇時〇〇分
開催場所	漁民の森周辺。
参対象加者	宿泊体験参加者。
内容	木の成長を調べる。間伐体験をして薪作りを行う。
主催	団体名（所属） 担当〇〇〇〇 連絡先
後援	〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇
協賛	〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇
協力	〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇
予算	収入 事業費、助成金等
	合計
	支出 資材費、保険料、謝礼・交通費等
	合計

（アンケート質問例）

- あなたは男の子ですか、女の子ですか？
学年も教えてください。
男 ・ 女 学年： 年生
- 楽しかったことは何でしたが？
その理由も教えてください。
- 難しいこと、苦手なことはありましたか？
その理由も教えてください。
- ほかに体験してみたい活動は？
- 林業についてわかったことは？
- 何か気がついたこと、意見などを書いてください。

※あくまで例です。企画書の利用目的に即した項目立て、内容を記載する必要があります。

3-2-2 実施手順【例2】

森づくり体験と木の親子探し（森を育て、育った木の名前を知ろう！）

企画者（主催者）

大樹町で行われている宿泊体験活動で、遊々の森「カムイコタン歴舟の森」をフィールドとした森林・林業に関する体験活動が出来ないかどうかの依頼を受ける。



I 参加者の要求や参加者の構成を把握する

森林観察と林業に関する体験を両方したい。他者（自然）への理解を深めたい。
参加者は地元の小学校低学年～高学年、男女約20名。これまでの森林環境教育体験活動の経験なし。活動時間は2時間程度。森林内の活動が可能（怪我や持病のある参加者はいない）。など



II フィールドでどのような体験活動ができるかを土地管理者、「遊々の森」協定締結者へ相談し、 現地を確認する

土地管理者：十勝西部森林管理署、遊々の森協定締結者：大樹町教育委員会、大樹町

●相談内容

- ・各者に体験学習を実施したいことを伝え、利用可能なフィールドの情報を得る。
- ・活動する場合の法規制などの必要手続き、規制行為について事前に把握し承認を得る。
- ・プログラム内容への助言、指導者（専門的指導）、運営スタッフとして活動への協力、参加を依頼する。
- ・企画者が参加者にこの活動で体験してもらいたいこと、身に付けてもらいたいことを関係者に伝え理解を得る。

●現地確認

- ・開催時期や活動時間、参加者の要求等を考慮し、実現可能な活動内容やフィールドを把握する。

【打合せ・協議・助言】

企画者、参加者代表、
森林管理署、
教育委員会、町

企画者がやりたいこと（想い）を伝え、活動可能か議論します。



III 活動の目的を考え、現地で可能な活動内容、ねらい・目標を想定する

目的：植樹や森林内での遊びを通して森を作ることの意味や木が育つまでの年月を知り、観察する力を養う。

【打合せ・協議・助言】

企画者、参加者代表、
森林管理署、
教育委員会、町

ねらい	目標となる内容	活動内容
森林に親しむ。	・森林に入るときに要領や危険回避を活動の中で養う。	・森林内での活動。
観察力を養い 視野を広げる	・木の特徴（違いのポイント）を知る。 ・木の大きさの違いを知る。	・木の観察。 ・木の大きさの比較。
木（森林）について知る。	・木の種類を知る。 ・森林の多面的な機能の一端を学ぶ。 ・木が大きくなるまでの時間的なスケールを認識する。	・植樹、木の観察、木を調べる。 ・森づくりの大切さを学ぶ。 ・木の大きさの比較、木の年齢を知る。
林業についての知識を深める。	・人の手でつくった森林は手入れが必要なことを知る。 ・森林を育てる手間と時間的なスケールを認識する。	・植樹、森林の観察。 ・自然界の競争について学ぶ。 ・木の大きさの比較、木の年齢を知る。

●活動場所を検討し選定する。

「カムイコタン歴舟の森」稜線沿いの緩斜面～頂上広場。（稜線沿いの緩斜面：植樹が可能、頂上広場：木の観察が可能）



IV プログラム作成（体験を進めていくための企画デザイン）

i) テーマを決める。

テーマを決定し、メインとなる「ねらい」や「達成目標」をしぼり、明確化する。
（参加者が活動時間内に無理なく体験できる活動内容とする。）

【打合せ・協議・助言】

企画者、参加者代表、
森林管理署、
教育委員会、町

テーマ	森づくり体験と木の親子探し（森を育て、育った木の名前を知ろう！）
ねらい	自然界の厳しい競争を知る。 観察力を養い、視野を広げる。木が育つまでに必要な時間を知る。
達成目標	森林の多面的な機能の一端を学ぶ。 人の手でつくった森林は手入れが必要なことを知る。 木の違いを見極めるポイントを知る。 稚樹と母樹の大きさの違いを知り、時間的なスケールを認識する。



ii) ストーリーの構成と進め方を考える。

- ・導入→体験活動の実践→まとめ・振り返り の流れを検討しタイムテーブルを作成する。
- ・体験活動の実践では当初のねらいを達成するための活動を盛り込むが、そこから派生する色々な体験も学びとれるようにする。

1) 導入の検討と構成。

①アイスブレイキング。

- ・森の季節さがし（5～10分）。

参加者が森林内や車道沿いを動き回り、個人が活動時期の季節を感じたもの（新緑、花、タネ、落ち葉、紅葉、キノコ、鳥、昆虫、雲、白い息、参加者の日よけの帽子、防寒着など）など何でも探してもらおう。探すものは参加者の感性に任せ、ヒントは言わない。しばらくした後集合し、季節を感じたものを発表する。

参加者が多い場合でグループ分けがされていない場合は、見つけたもののグループでグループ分けを行う。人数に偏りがある場合は、学年、誕生日順などでグループ分けを行う。

②動機付け。

- ・植樹による森づくりの大切さを伝えます。

（例えば、木や植物などの根は山の表面の土を覆い抑えてくれているため、大雨などにより発生する土砂崩れなどの災害を防いでくれていること、森林（山）は水を蓄え、余計な不純物などを取り除き、ミネラル分豊富な水を沢や川を通じて、人々の暮らしに運んでくれていることなど。ポケットガイド2参照）

- ・今回は木を植えることと、木の名前を当てるゲームをすることを伝える。

2) 活動の項目や、順番、内容の検討と構成。

①植樹を行ってから木の名前を当てるゲームをすることを伝える。

②植樹を行う。

- ・植える苗は取り扱いやすさ、植えた後の活着率の良さ、母樹と比較することから、ポット小苗木とする。
- ・植える樹種は5種類程度を準備する。
- ・植える苗の説明をする。

周辺に見られる木と同じ苗を植える理由として、

周りの木は自然界の競争を勝ち抜いて育っているので、

植える場所にも適していて生き残る可能性が高いことを伝えます。

- ・植え方、注意事項の説明。

- ・植樹の実施。

- ・植えたところに木の名前を書いた札を立てる。

- ・説明どおり植樹されているか確認。

③周辺の森林で植えた木の親探し（木の親子さがし）を行う。

（稚樹は道端など少し開けたところに多く見られるが、植樹実施のために車道の除草をする

必要があり、稚樹が消失する恐れがあるため、植えた木の母樹を捜す活動とした。）

- ・母樹にはあらかじめ番号札を付けておきます。

一部、ササで少し見えにくい付け方をして下層植生を意識させる。

- ・観察の機会を増やすために同種の母樹が複数ある種も用意する（個数を増やす）。

- ・記録用紙の配布。

- ・ルールの説明。

- ・活動の開始。植えた木の名前を書き、その欄に母樹の番号を記入、気づいたことも記載。

- ・途中で母樹にも同じ種類があることを伝える。

【プログラムの企画に際し覚えておくべきこと】

- 誰もが好きなこと、嫌なこと。
 - ・好きなこと：五感を使った体験、ユーモア、新しい知識・情報が理解できるなど。
 - ・嫌いなこと：地味な講義、一方的な説明、専門的過ぎる、段取りが悪い。
- 自然体験活動の意義。
 - ・人が自然と触れ合いながら、自ら行動し、五感で感じながら、積み重ねていく学びのプロセス。
 - 参加者がまた参加したいと思える内容に。

森づくり体験 と 木の親子さがし		
年	月	日
ぼく・わたしがかうえた木の名まえ		
木のなまえ	木の親の番号	気づいたこと
みんながかうえた木の名まえ		
木のなまえ	木の親の番号	気づいたこと

記録用紙案

3) まとめ・振り返り

- ・答え合わせ。正解数を挙手してもらおう。
- ・植えた木がこれから長い年月をかけて、育っていくことを伝えます。
- ・周辺の母樹を見ながら、植樹箇所の将来像をイメージしてもらおう。
- ・周りのササを見ながら、自然界の競争があることを伝え、下草刈など人が最小限の手助けをしていくことを伝える。



iii) タイムテーブルの作成と専門家、協力団体への依頼の検討

専門分野に精通した人（専門家）・団体に対して人材や機材などの貸し出しについて積極的に協力を求めます。

時間	活動項目	依頼内容（依頼先）
	集合。	参加者の交通手段（参加者代表）
0:00	導入。 ・アイスブレイク、動機付け。	
0:15	植樹体験。	ポット苗の調達（造園業者など）、 木の植え方の説明・指導（造園関係者、林家、管理署など）。
0:40	木の親子さがし。	
1:10	全体のまとめ、振り返り。	
1:30	アンケート、終了。	



iv) 事前準備項目を把握。

1) 必要資材のリスタアップ。

ポット苗5種類程度（人数分）、軍手（人数分）、クワ（5本程度）、スコップ（5本程度）、ショベル（20本）、樹木図鑑（5～10冊）、記録用紙（人数分）、アンケート用紙（人数分）、筆記道具（人数分）、画板（人数分）、木の札または平杭（人数分）、マジック（人数分）、番号を記したラミネート（7程度）

2) 現地確認等の項目を把握。

- ・植樹箇所周辺の母樹の場所と樹種を調べる。
- ・移動経路の確保（車道の除草）。
- ・植樹箇所の基盤整備（ササの刈払いと地拵え）。

3) 人材の把握と運営組織づくり。

運営スタッフの役割分担を行い、プログラム実施のための配置（動き）をあらかじめ決める。スタッフが不足している場合は協力団体などに依頼し必要な人材、人員を確保する。

所属	氏名	役割	連絡先
主催団体	A	責任者、進行（全体・プログラム）、事前準備等。	携帯番号等把握
主催団体	B	副責任者、安全管理責任者、事前準備等。	
主催団体	C	運営サポート、事前準備等。	
協力団体A	D	基盤整備、移動経路の除草。	
協力団体B	E	運営サポート、事前準備等。	
協力者（専門家）	F	専門分野の指導説明（専門分野の安全管理）、運営サポート、苗の準備。	
参加者代表	G	参加者引率、運営サポート、事前準備等。	

スケジュール	A	B	C	D	E	F	G	その他
前日まで。	事前準備	事前準備	事前準備	基盤整備	—	苗木準備	—	植樹箇所の基盤整備、移動経路の除草は前日までに完了しておく。
-1:30 活動当日。	会場準備	安全確認	会場確認	—	会場確認	苗木運搬	引率	安全管理責任者は緊急用車両を配置する。
-0:30	スタッフ打合せ	スタッフ打合せ	スタッフ打合せ	—	スタッフ打合せ	スタッフ打合せ		当日の安全が確保されない場合は中止を決定する。
0:00 プログラム導入。	進行	サポ	サポ	—	サポ	サポ	サポ	—
0:15 プログラム 植樹体験。	—	—	—	—	—	指導	—	—
0:50 プログラム 木の親子さがし。	—	—	—	—	—	サポ	—	—
1:00 プログラム まとめ。	—	—	—	—	—	—	—	—
2:00 終了。	—	—	—	—	—	—	—	—
2:30 参加者解散。	見送り	見送り	見送り	—	見送り	見送り	引率	スタッフ打合せ、片付け、清掃終了後解散。

4) 安全対策。

教材編「安全対策について」を参照し、対策事項を把握する。

5) 荒天時等の活動。

荒天または現地の安全が確保できない場合は、室内活動を準備するか開催を中止する。変更案として工場見学などの活動を予定。

6) 必要資金など

専門家、協力団体の謝金または交通費、参加者の移動費、除草や基盤整備費、資材調達費、事前の整備費等の予算を立てる。



V 企画書または意思疎通のための資料作成

【打合せ・協議・助言】

ねらい、参加者、活動内容や達成目標などを記載し明確化。プログラムの内容、達成目標の質・量とも適当であるか、運営側および参加者代表とともに検証する。

企画者、運営者、指導者
協力団体、参加者代表



VI 事前準備の実施

i) 必要資材の準備。

IV-iv-1) の必要資材のリストより、主催者が準備する資材、協力団体に依頼する資材を確認し準備する。

ii) 運営組織の事前打合せの実施。

- ・運営スタッフと役割分担や責任者、連絡体制、緊急時の対応、活動内容、安全確認、荒天時の対応などについて最終ミーティングを済ませておく。教材編「安全対策について」を参照。
- ・専門家、協力団体の使用機材の確認と取り扱いを確認。

iii) 現地の整備・確認などの準備。

IV-iv-2) の項目より、現地での準備および確認作業を実施。安全確認等については教材編「安全対策について」を参照。特に植樹箇所の基盤整備や移動経路の除草は、実施先を確定し前日までに完了しておく。

iv) 主催者、参加者、スタッフの賠償責任保険、傷害保険への加入。



VII 開催当日

i) 開催前のスタッフ打合せと安全確認。

- ・当日の流れを確認。
- ・参加者の体調を把握。活動場所および移動経路の安全確認。新しいヒグマの痕跡、ハチの有無を確認（現地の見回りは2名以上で実施）。救急箱、無線の準備。緊急連絡先（救急病院）の場所、連絡先を把握。緊急搬送用車両の配置の場所を確認。など。

ii) 安全確認状況や天候によっては中止を決定。



VIII 体験活動の開催

i) 活動中のスタッフは、

- ・参加者の反応に敏感になり対応する。
- ・参加者ができているかを確認する。
- ・必要に応じて活動のコツ、ヒントなどの情報を伝える。
- ・参加者同士や指導者、専門家と話し合える時間や雰囲気づくりを行う。
- ・全体を通した安全へ配慮。
- ・ゴミへの注意を促す。

ii) 閉会時

- ・忘れ物、落し物、ゴミ、返却物の確認。
- ・参加者からのアンケートをもらう。閉会の挨拶。（主催者）
- ・見送り。（スタッフ全員）

場合によっては、プログラムの変更・削除も必要（まとめ・振り返りは除く）。



IX 実施後の対応・検証

i) スタッフミーティングの実施。

- ・アンケートの検証。
- ・プログラムの内容、達成目標の質・量とも適当であったか。
- ・時間に余裕はあったか。
- ・危険な事案が発生しなかったか。
- ・準備内容に不備は無かったか。
- ・楽しみがもてる活動であったか。
- ・柔軟な指導はできたか。など。

ii) 協力団体、専門家等への挨拶、報告。

iii) 参加者への事後ケア（ニュースレターの配布など）の実施。



X 次回活動への対策・改善

次回の開催に向けて具体的な取組についての整理、参加者の意向をまとめ、今後の活動に活かせるような提案を行う。

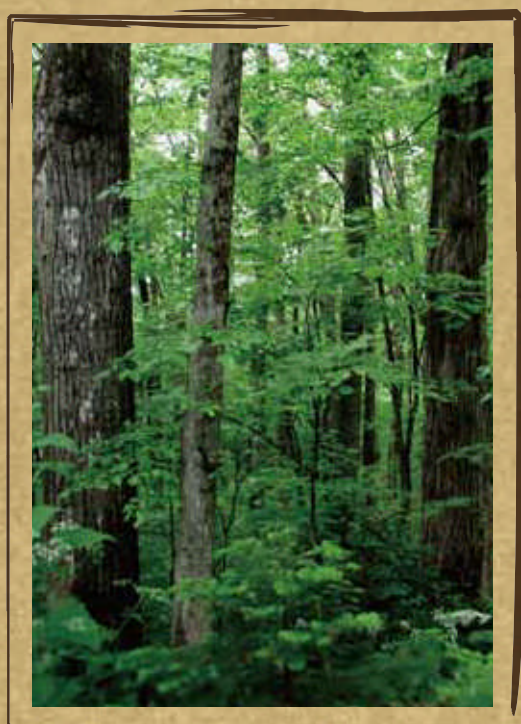
参考（企画書例）

活動名 (サブタイトル)	森づくり体験 と 木の親子探し（森を育て、育った木の名前を知るう！）
開催の目的	地元の小学生が、森林内での活動を通して森の大切さを知り、地域の自然や林業について興味を持つきっかけづくりを行う。
活動のねらい	参加者の観察力を養い視野を広げる。自然界の競争や木が育つまでに必要な時間を知る。
活動の達成目標	森林の多面的機能の一端を学び、人の手でつくった森林は手入れが必要なことを知る。木の違いを見極めるポイントや木が育つまでの時間を認識する。
予想される成果	木の特徴、森林が人々の生活に役立っていることなど、新しい知識、情報を得ることが出来る。他者（自然・人）への気付き、理解を育む。
開催日	平成〇〇年〇〇月〇〇日（〇曜日） 午前〇〇時〇〇分～〇〇時〇〇分
開催場所	「カムイコタン歴舟の森」山頂広場周辺。
参対象加者	地元小学生。
内容	植樹体験。木の名前を当てるゲーム。
主催	団体名（所属） 担当〇〇〇〇 連絡先
後援	〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇
協賛	〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇
協力	〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇
予算	収入 事業費、助成金等 合計
	支出 資材費、保険料、整備費、謝礼交通費等 合計

※あくまで例です。企画書の利用目的に即した項目立て、内容を記載する必要があります。

（アンケート質問例）

- あなたは男の子ですか、女の子ですか？
学年もおしえてください。
男 ・ 女 学年： 年生
- 木のなまえは知っていましたか？
知っていた（数は？） ・ 知らなかった
- 木のなまえはおぼえられましたか？
おぼえた（数は？） ・ おぼえられなかった
- 木をうえるのはかんたんでしたか？
すごくかんたん・かんたん・むずかしい
・とてもむずかしい
- 木のハカセのお話はわかりましたか？
よくわかった・わかった
・わからなかった・まったくわからなかった
- 木の親子を見つけるのはかんたんでしたか？
すごくかんたん・かんたん・むずかしい
・とてもむずかしい
- 森はあったほうが良いと思いますか？
思う・ちょっと思う・あまり思わない・思わない
- 何か気がついたこと、意見などを書いてください。



林野庁 北海道森林管理局

十勝西部森林管理署 お問い合わせ先 **0155-24-6118**

〒080-0809 北海道帯広市東 9 条南 14 丁目 2-2 Fax.0155-24-6119